

「英語教育を重視するという話は本当ですか？」

●大門さんからの質問

自民党の会議によると、今度は楽天の社長さんの発案で英語を教育の中心に据えると言う話があるそうです。日本語が閉鎖的だそうです。だから日本語は疎かにして良いので英語を教育において重視すべき！という事らしいのですが、これに関してどう思われますか？

●西田昌司の答え

ビジネスをすると海外に出る機会が多いですから、英語を話せる方が有利だと言われますし、確かにその通りです。私が参議院議員になった時に、ODA委員会のメンバーとしてアフリカのODAの視察に行きました。民主党の2人の先生と一緒にりましたが、2人とも英語がペラペラでした。東大卒と早稲田卒で、留学や仕事で海外に行った経験のある方々でした。しかし私は、日本の国会議員が公式のやり取りで日本語を使わないのはどうかと思い、日本語を話して通訳してもらいました。英語を話せると確かに便利ではあります。しかしここで強く感じたのは、日本について根本的なことがわかっていないと、英語で話そうが日本語で話そうが何も相手に伝わらないということです。そのような土台があって、さらに英語を話せるのであれば一番良いですが、英語ばかりに力を入れても、肝心なことが何も伝わりません。

「最大の非関税障壁は日本語だ。英語を公用語にしよう」という議論をよく耳にします。確かにそうすれば海外との交渉もやり易くなるでしょう。しかしそれをやってしまうと、日本人が日本人でなくなります。「日本語でものを考え、日本語を話す」からこそ日本人なのです。最近では古典の時間が少なくなりましたが、古語で書かれたものでも訓練をすれば読めるようになります。そうすることで「過去の日本人」との対話ができるようになります。

英語を自由に使えると外国人との対話はできます。しかし日本語を疎かにすると「過去の日本人」との対話ができなくなります。そうなってしまったら、もはや日本人ではありません。日本人として生きるには、先人から相続した権利・義務を引き受けて、伝統を尊重しながらも変えるべきことは変えていかねばなりません。その為には「過去の日本人」としっかり対話することが大事です。それゆえに歴史（昔は国史と呼びました）や国語を学ぶのが教育の基本でありました。ところが最近では「歴史＝日本史＋世界史」といった具合に日本の歴史が相対的に扱われています。この調子でいくと「語学＝日本語＋英語」のように、日本語までもが英語と同列に扱われる日が来るかもしれせん。

確かに英語教育を充実させることは大事です。また、よく言われるように「中学3年、高校3年、大学4年の合わせて10年間、英語を勉強しても大して身につかないじゃないか。小学生からの英語教育を検討すべきだ」というご指摘もわかります。最近では、子供が小さい頃からアメリカンスクールに入れたり、英語のみを用いる塾に入れたりする親御さんがおられるそうです。小さい頃から英語になじませると吸収が速いとの思いからでしょう。しかし、そのように育てられた子供は間違いなく普通の日本人ではなくなってしまいます。英語が使えるようになるのは財産ではありますが、同時にハンディキャップにもなりうるということを十分に認識しておくべきです。

私はやはり、日本語をきちんとやるべきだと思います。幼少期から青年期にかけての期間は限られており、この約20年の間に学べることは限られています。英語に重きを置くと、逆に他のものがその分だけ疎かになります。今、日本が陥っている問題は、英語が出来ないことに起因するわけではありません。日本人が日本語や日本の歴史を疎かにして、日本人としての誇りを失ってしまったことが問題です。日本語・日本の歴史の勉強も含めて、日本人が日本人としての誇りを感じられるような教育が必要なのだろうと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>